

第2章  
3 施策領域

## 交流・連携基盤

## るべき姿(概ね30年後)

- 国内外の人・モノが、県内の空港・駅・港湾や幹線道路等から円滑かつ安全に入り出し、多様な交通ネットワークによって県内を迅速かつ円滑に移動しています。

## 目指す姿(10年後)

- ビジネスや観光、日常生活において県内外を移動する人が、快適かつ適切なコストで利用できる交通基盤やMaaS等の多様な交通ネットワークから、それぞれの目的に応じた最適な手段を組み合わせて、便利で快適に移動しています。
- 県内及び周辺地域の立地企業とその相手先企業が、本県の港湾サービスと多様な交通ネットワークなどを組み合わせて利用することにより、それぞれの企業が希望する最適な物流ネットワークを構築しています。
- 国内外から本県を訪れる人が、クルーズ客船で安全かつ快適に寄港し、地域の魅力に触ることで高い満足度が得られています。

## 指標

	現状値(R1)	10年後の目標値(R12)
広島空港利用者数	297万人	360万人
県内港におけるコンテナ取扱量	36万TEU	48万TEU
年間渋滞損失時間	4,500万時間	3,000万時間



広島空港



広島港国際コンテナターミナル



一般国道2号の渋滞状況

## 目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 本県企業の海外展開によるビジネスニーズの高まりや、本県を訪れる国内外からの外国人観光客の増加に対応する必要があります。また、利用者ニーズの多様化に合わせ、空港と目的地を結ぶ効率的な移動手段の確保を進めていく必要があります。
- 地方空港間の路線誘致競争が激化してきています。また、将来は新たな交通手段として東京～大阪間で、リニア中央新幹線開業も予定されています。
- 経済成長著しい東南アジアとの直行便など利用者ニーズに対応した海上輸送サービス(ロジスティクス機能)の集積が不足しています。加えて、生産年齢人口の減少を背景とした港湾関連業に従事する人材の不足が懸念されます。また、モーダルシフト(陸上輸送から海上輸送への転換)により二酸化炭素削減、環境負荷軽減を図り、SDGsに貢献することが必要です。
- ラグジュアリー・プレミアムクラスのクルーズ船が入港する際に、施設の受入機能が不足するとともに、訪日観光客のニーズがモノ消費からコト消費へ移ってきており、それらの新たなニーズへ対応する必要があります。
- 新型コロナの感染状況を踏まえ、需要回復に取り組むとともに、新たな利用者ニーズに柔軟に対応していく必要があります。
- 物流業界における労働力不足が顕在化する中で、生産性を高めるためには、依然として都市部に存在する渋滞による時間の損失が課題となっています。また、県内では、工業団地への企業立地や、新たな工業団地の造成が増加しており、これらの物流拠点と井桁状の高速道路ネットワークへのアクセスを強化する必要があります。
- 人口減少・少子高齢化社会においても、地域における社会経済を維持するために、中核性を備える圏域の市町が連携する必要があります。また、中小都市においても産業振興や医療・福祉等の拠点として重要な役割を引き継ぎ担当するため、これらの拠点間のネットワークを強化する必要があります。

## 目指す姿の実現に向けた取組の方向

## ① 世界とつながる空港機能の強化

中四国における国内外のビジネス・観光等の交流の出入口であるグローバルゲートウェイとして、航空便利用者の多様なニーズに対応するため、新たな路線誘致やMaaSの本格的進展を見据えた交通手段の拡充により、世界・各都市とつながる航空ネットワークの拡充と空港アクセスの利便性向上など広島空港の機能強化を図ります。あわせて、関係者と連携した需要創出に取り組みます。

## ② 世界標準の港湾物流の構築とクルーズ客船の寄港環境の整備

利用者の多様なニーズに対応した港湾物流サービスと東南アジアを含めた世界各港との最適な航路ネットワークを提供し、瀬戸内における国内外の港湾物流ネットワーク拠点としての役割を担うため、大水深岸壁を備えたコンテナターミナル等の整備や効率的なターミナル運営体制の構築、新規コンテナ航路誘致、さらにはデジタル技術を活用した荷役機械の自動化・遠隔操作化など、ハード・ソフト両面から取り組みます。

また、クルーズ客の新たなニーズへの対応やラグジュアリー・プレミアムクラスをはじめとした客船にふさわしい寄港環境の整備に取り組むとともに、クルーズ船での感染症発生時の対応について関係者と連携して取組を進めます。

## ③ 人・モノの流れを支える道路ネットワークの構築

定時性や速達性の確保による生産性の向上を図るとともに、交流・連携機能や交通拠点へのアクセス性の強化に資する道路整備等を推進します。